

第2回 大分川・大野川学識者懇談会 議事概要

平成26年6月16日（月）15:10～16:50

大分河川国道事務所 別館第1、第2会議室

【出席者】

中野委員長、飯沼委員、川野委員、佐藤委員、島田委員、東野委員、
吉田委員

◆：委員、●事務局

1. 大野川水系河川整備計画について

1) 質疑応答

- ◆ 水質は公共用水域の水質測定計画があるが、同様に生物関係でこのような取り組みはなされているのか。
 - 河川水辺の国勢調査により、植物、魚類、底生生物等を定期的に調査している。最終的には環境マップという形で取りまとめ、河川工事で環境へ配慮するための基礎資料として活用している。

- ◆ 河川の水利用について、河川整備とどのように関係してくるのか。
 - 利水については、水利使用者毎に台帳を作成し、取水実態を水利使用者から毎年報告して頂いている。これら利水関連についても今回の河川整備計画の対象としている。

- ◆ 樹林帯に並行して乙津川の導水路があるが、その効果を教えていただきたい。また、堤防保護に効果はないのか。
 - 乙津川の水質が一時期悪化したことから、大野川から導水し、乙津川への一定の流量を確保するために設置している。堤防保護の効果については、検証していない。

- ◆ P11の堤防の浸透に対する安全性の確保で、ドレーン工法の施工箇所を決め方と乙津川の水位がどれくらい上がった時に効果を発揮するのかを教えてください。
 - 施工箇所は、ボーリング調査などの基礎情報を把握し、堤防の浸透に対する解析及びすべりについて照査を行い、必要な箇所について対策を実施している。解析時の乙津川の水位は計画高水位（HWL）を想定している。

- ◆ ドレーン工法については、土研等の研究機関で実験し、確立された工法なのか。また、この工法の透水係数や厚さ等の設計指針はあるのか。

- 設計指針に基づいて実施している。詳細については、次回返答する。
- ◆ 堤防の浸透に対する対策が必要な縦断距離はどのくらいか。
 - 大分川が約 6.1km、大野川が約 6.1km を対象に整備を進めている。
- ◆ 地震・津波と大雨や高潮が同時に発生する確率は低いと思われるが、実際整備する上での基本的考え方はどうなっているのか。東北の地震以降、津波と出水が重なることも、全くないとは言えないのではないか。
 - 地震発生後、まずは津波に対するリスクが大きいことから、堤防耐震対策については津波の遡上範囲を優先して行っている。

2) 点検結果

- ◆ 大野川水系河川整備計画については、変更の検討を進める。

2. 大分川水系河川整備計画について

1) 質疑応答

【大分川水系河川整備計画の概要及び課題と対応方針】

- ◆ 大分川の水質については環境基準を満足しているが、決していい水質とは限らないことを認識してほしい。
- ◆ 今後、新しいデータが加われば新たにこれもやらないという状況も予測されるが、そういうことはないのか。
 - 同一外力であれば、整備メニューが増えることはないと考えているが、将来、計画内容の変更が必要となる場合は、改めて提案させていただく。
- ◆ 河川水辺の国勢調査は、現在 5 年に 1 回であるが、個人的には、生物、特に魚類、水生昆虫の調査を密に行うのがよいと思う。また、自らの調査では、大分川の水温は 100 年間に 2℃程度上がっているので、注意が必要である。

2) 点検結果

- ◆ 大分川水系河川整備計画については、今後も現計画にて引き続き実施する。